

研究主題 「読んだ内容を基に自分の考えを表現する英語科の指導の工夫

—パラグラフ構成を手掛かりにして—

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
練馬区立貫井中学校 主任教諭 伊藤 智子

第1 研究のねらい

中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成が示されている。しかしながら、「英語教育改善のための英語力調査（平成26年）」では、まとまりのある英語を受信すること（聞く・読む）と、まとまりのある英語で発信すること（話す・書く）に課題があることが明らかになり、各授業において技能統合型の言語活動を一層充実させていく必要があることが示された。

そこで、本研究では、「読むこと」と「話すこと」の二つの技能に焦点を当て、まとまりのある英語の文章を読み、その内容について英語で表現することへとつなぐ、技能統合型の言語活動の指導の工夫に取り組むこととした。積極的に英語の文章を読み、英語で表現しようとする意欲を高めることをねらいとして、「読むこと」と「話すこと」を統合する指導のポイントを「パラグラフ（一つの主題に関するまとまりのある英語の文章）」の理解に置くこととした。

「パラグラフ」は、①主題文、②支持文（主題に説明を加えたり、具体例を述べたりする。）、③結びの文（主題文の言い換え、結論、主張等）により成り立っているもので、これにより英語の文章は論理の一貫性が担保されている。そのため、このパラグラフ構成を踏まえて読むことができれば、生徒は文章をより論理的に捉えることができると考えた。また、まとまりのある英語は、パラグラフ構成を活用して書かれたり話されたりしていることから、パラグラフ構成を踏まえた学習方法は、「読むこと」と「話すこと」に共通して活用できるものである。

このパラグラフ構成の特徴に着目し、文脈をつかみながらまとまりのある英語の文章を読み、読んだ内容を基に自分の考えを表現する言語活動の指導を意図的・計画的に行うことにより、生徒の学習意欲を向上させることが、本研究のねらいである。

第2 研究仮説

生徒は、技能統合型の言語活動の中で、パラグラフ構成を活用することができれば、まとまりのある英語の文章の大意を把握して読み、読んだ内容について英語で表現できるようになり、学習意欲が向上するだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

基礎研究として、二つの視点から取り組んだ。

第一に、パラグラフ構成を活用した読解指導の有効性について研究した。その結果、読解に推論発問を取り入れることと、英語による要約を行う指導の二つが有効であることが分かった。

第二に、言語技術教育の先行研究を調査し、情報のまとめ方や伝える順番の決まりなどを系統的・段階的に指導する方法を研究した。その結果、情報を的確に受信・発信する力を高めるために、①情報の分析、②要約、③パラグラフ構成の指導が効果的であることが分かった。

2 調査研究

(1) 生徒に対する調査（都内公立中学校第3学年 303名）

「まとまりのある英語の文章を読むことが好きか」という質問に、好きと答えた生徒と好きではないと答えた生徒のそれぞれについて、読解方法と読解意欲のクロス集計を行った。その結果、読むことが好きな生徒は、文脈や既習事項等を用いて大意を把握する読み方をする者が8割以上であるのに対して、読むことが好きではない生徒では、5割から6割程度にとどまることが分かった（表1）。また、表現において、生徒が何に困難を感じているかを調査した結果、「適切な文章構成で伝えること」が約7割、「考えをまとめること」が約6割であった。

表1 英語の文章をどのように読むか

(n=303, p<.01)	読むことが好き	読むことが好きではない
(1) 文脈から概要を推測する	89.3%	58.2%
(2) 内容をイメージ化する	84.3%	56.8%
(3) 構成・展開に着目する	81.8%	54.2%

意欲との相関 (1)r=.446 (2)r=.365 (3)r=.416

調査の対象者のうち20名を抽出したインタビュー調査では、読解の際に和訳をしても文章の大意がよく分からない、との声が聞かれた。さらに、この20名のうち英語を読むことと話すことに苦手意識をもつ5名を抽出し、読解内容の要約とそれに基づいて自分の考えを表現させるテストを行ったところ、表現に役立つ情報をテストの本文中から見付け出すことができていないことが分かった。この結果から、英語に苦手意識をもつ生徒は、読解においては、大意を把握する読み方をしていないこと、また、読解・表現においては、両者に共通して文章構成を分析する読み方や表現をしていないことがうかがえた。

(2) 教員に対する調査（都内公立中学校英語科教員 85名）

技能統合型の言語活動・指導の効果について意識調査を行った。表2のとおり、「英語使用が増える」といった、肯定的な回答が得られた一方で、「技能を統合して活用させる授業を行うことに慣れている」と回答した教員はわずか4.8%であった。また、「子供の実態が多様であり、各技能の定着に時間がかかる中で、技能統合の指導計画を立てることが難しい」との意見も散見された。

表2 技能統合型の指導の効果

	そう思う
英語使用が増える	90.1%
学習意欲が高まる	87.7%
英語への理解が深まる	82.7%

これらのことから、教員は、技能を統合して活用させる言語活動及び授業展開が、生徒の英語力の向上に効果があると感じていながら、実践に結び付けられていないことが分かった。

(3) 調査結果の考察

以上の調査結果から、生徒の読解と表現に関する課題を踏まえ、読んだ内容を基に自分の考えを表現する技能統合型の言語活動・指導が効果的であると考え、授業実践に結び付けやすい指導方法と教材の開発を行った。

3 開発研究

(1) 指導方法の開発

第3学年を対象に、単元「英語の文章の構成に着目して読み、表現しよう」（5時間扱い）の指導計画を作成した。パラグラフ構成の学習では、基礎研究で明

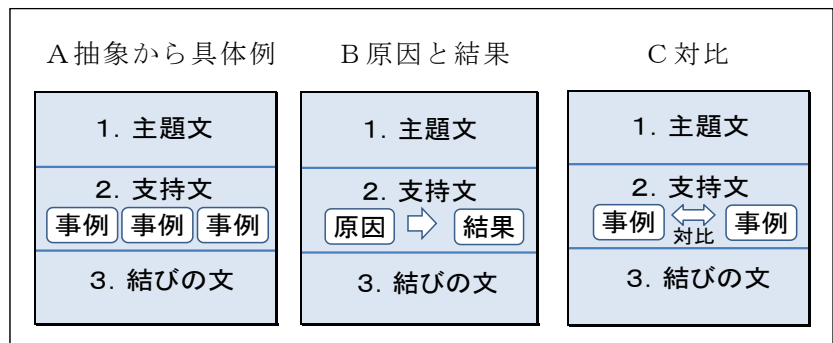


図2 パラグラフ構成図

らかにした英語の文章構成の基本形である三つのパターンについて、パラグラフ構成図（以下、「構成図」と表記。）を使って理解させ、それぞれのパターンで構成される英語の文章の読解に取り組みさせるという指導方法を開発した（図2）。また、読解から表現につながる技能統合型の学習過程を開発した（図3）。

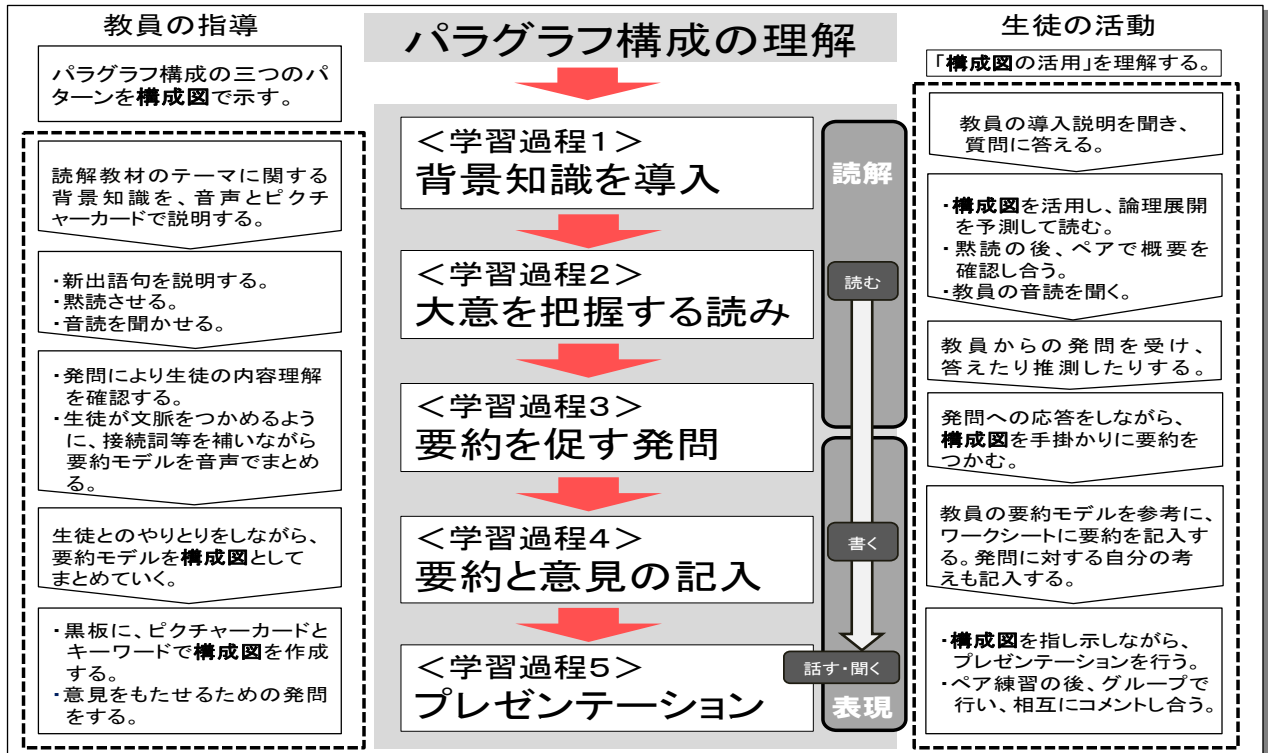


図3 読解から表現への学習過程

(2) 教材の開発

ア パラグラフ構成の三つのパターンに対応する読解教材を作成した。

イ 上記の＜学習過程4＞で使用するワークシートを作成した。ワークシートに取り組ませる前に、教員は、生徒との十分な英語音声でのやりとりを行い、生徒が構成図を手掛かりに要約を想起できるようにしておく。その上で、空所補充式の要約のワークシートに取り組ませることで、読解内容を要約できているかどうか、生徒自身が確認できるように指導した。要約文に加え、「彼の行動が正しいと思うか」や「このイベントに参加したいか」等の「意見をもたせるための発問」に対する自分の考えも、英語で記入できるように工夫した。

4 検証授業

(1) 検証授業の概要

都内公立中学校において、平成27年10月に第3学年（140名）を対象に、検証授業として単元「英語の文章の構成に着目して読み、表現しよう」（5時間扱い）を実施した。

(2) 生徒の意識の変容と考察

授業後の調査で、「パラグラフ構成を活用した学習方法は、読解と表現において有効である」と回答した生徒は82.2%であった。「話の要点をつかんで読めるようになった」、「構成図が話す際のメモとなり、伝える内容や考えをまとめる補助として活用できたため、表現への自信がついた」という自由記述も見られた。図4のとおり、読解では、次の内容を予想しながら読むと回答した生徒が38.8ポイント増加し、接続詞等のつなぎの言葉に注意して読むと回答した生

徒も 25.1 ポイント増加した。表現においては、話す内容について頭の中で考えをまとめることができるようになった生徒が 12.7 ポイント増加した。これらのことから、生徒が読むときと表現するときに、パラグラフ構成図を活用する学習方法の指導に効果があったと考える。学習意欲については、図 5 に示すとおり、まとまりのある英語の文章を読みたいと考える生徒が 39.4 ポイント増加した。表現では、「英語でプレゼンテーションできると達成感を感じる」と回答した生徒が 85.2%、「もっと表現活動をしてみたい」と回答した生徒が 82.3%であった。以上のことから、生徒の読解と英語で表現することへの意欲を高められたと考える。

(3) 生徒の発話の変容

検証授業の前のインタビュー調査で、英語を読むことと英語で表現することが苦手と回答した生徒 5 名を対象に再度発話のテストを行い、表現する力の変容の有無を調査した。英語検定 4 級程度の英語の文章（150 語程度）を読んだ後、内容の要約に感想や意見を加えて話させるものである。1 名の生徒は、話し始めるまでの時間が検証授業後は約 10 秒短くなり、発話量では、語彙数が 50 語から 98 語へと増加した。内容では、「これから～について話します。」等、話を聞く相手を意識した構成への変化が見られ、自分の意見も複数の文章で述べるようになった。要約では、接続詞等を使うようになったことから、文脈をつかんで読んでいると推測される。使用する語彙も、与えた英語の文章の中から適切に抽出して活用するようになった。この傾向は、他の 4 名についても見られたことから、読んだ内容を要約し、それを基に自分の考えを英語で表現する技能の高まりに一定の効果があったと考えられる。

第 4 研究の成果

パラグラフ構成を活用した指導により、生徒は英語の文章の概要を捉えられるようになり、読解意欲の向上につなげることができた。表現では、読んだ内容に基づいて英語で表現することの意欲が高まった。また、プレゼンテーションは、複数の技能を統合した言語活動であり、これを単元の目標とすることにより、英語で伝えたいという生徒の意欲が高まった。これらのことから、本研究で開発した指導方法や教材の有効性が検証できたと考える。

第 5 今後の課題

今後は、生徒が一層興味・関心をもてる読解教材の開発や、お互いに話した内容について質問したり、意見を述べたりする技能統合型の指導方法の研究を深めていくことが課題である。

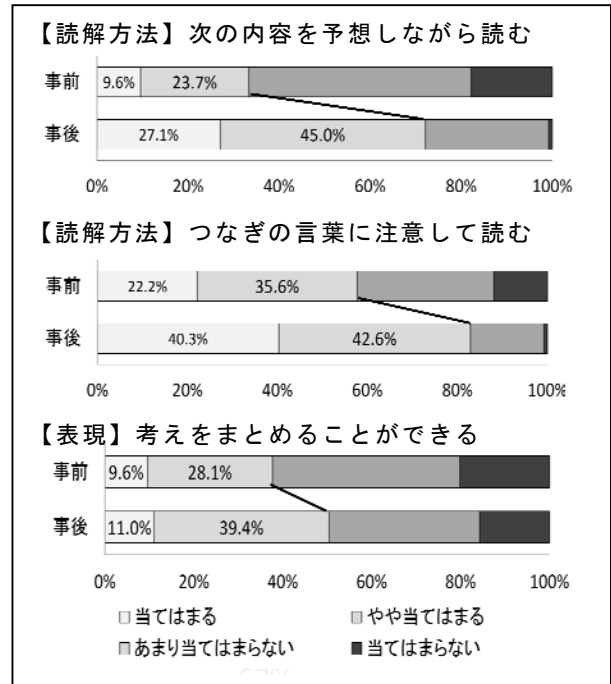


図 4 読解方法と表現の意識の変容

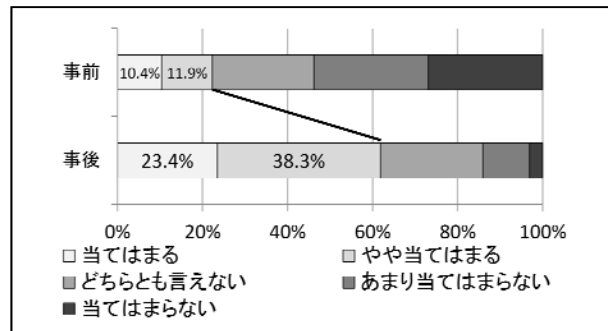


図 5 まとまりのある英語の文章を読みたい